

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	国語	2・東書	新編 新しい国語 1 新編 新しい国語 2 新編 新しい国語 3
取 扱 内 容	○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数51 集めた情報の整理の仕方を身に付け、図表を入れたレポートを書く活動や、浦島太郎について書かれた文章を読み、古典を学ぶ意味を考えることができるようになっている 第2学年～教材数53 必要な情報に着目し、囲みや矢印、表を使い整理する活動や、写真資料を使って古典を学び、筆者のものの見方や考え方を捉えることができるようになっている 第3学年～教材数44 インターネットなどで調べることを通して、情報の信頼性と客観性を吟味する活動や、古典の言葉を読み味わい、一節を引用して考えを書くことができるようになっている ○話すこと・聞くことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数6 話の中心を明確にし、スピーチの構成を考える活動や、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるようになっている 第2学年～教材数4 資料や機器を活用して分かりやすく説明したり、伝えたりする活動や、互いの立場や意見を尊重しながら話し合い、結論を出すことができるようになっている 第3学年～教材数5 相手や目的に応じて思いや考えが伝わるように表現を工夫する活動や、多様な意見を理解し、互いの意見を生かして話し合い、合意を形成することができるようになっている ○書くことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数8 調べて分かった事実や考察について構成を考えてレポートを書く活動や根拠を明確に示し、自分の意見が伝わる文章を書き、感想を交換することができるようになっている 第2学年～教材数9 多様な方法で集めた材料を整理し、読み手の立場に立って表現を工夫する活動や、根拠の適切さについて吟味して意見文を書くことができるようになっている 第3学年～教材数6 集めた材料を吟味し、目的や意図に応じて文章の種類を選択して書く活動や、論理の展開や表現の仕方を工夫し、説得力のある批評文を書くことができるようになっている ○読むことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数22 詩に描き出されている風景や、込められている思いを想像し、音読する活動や、目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるようになっている 第2学年～教材数22 登場人物の言動の意味を考えて作品を読み深める活動や、複数の文章を読み比べて、構成や論理の展開、表現の工夫について考えることができるようになっている 第3学年～教材数23 作品の展開や表現の仕方に着目し、批評する活動や、文章に書かれている内容の妥当性を吟味・検討しながら読むことができるようになっている ○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 「てびき」や「学習の流れ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などの描写をもとに読み取ったり、文章の構成や表現の工夫について発表し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている 第2学年～ 「てびき」や「学習の流れ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるととも		

	に、構成や表現を工夫して記事を書き換えたり、場面の描かれ方を比較し、場面の展開や表現の効果について交流したりするなど、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている 第3学年～ 「てびき」や「学習の流れ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、登場人物のものの見方や考えについて考え、人物像をつかんだり、筆者の主張その根拠について捉え、書き方の工夫について話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている ○伝統的な言語文化については、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深め、目標を達成することができるよう、以下に示す教材数のように取り上げられている。 第1学年～教材数4、第2学年～教材数3、第3学年～教材数3
内容の構成・排列	○内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 段落の役割や段落どうしの関係を捉え、要旨をつかみ、文章の構成や表現の効果について考える活動の後に、事実と考えとの関係を捉え、要旨をつかみ、必要な情報に着目して要約する活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 第1学年の日常生活から題材を決め、出来事や思いがいきいきと伝わるように随筆を書く活動の後に、表現の効果を考えて描写し、想像した場面が伝わるように工夫して物語を書く活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 第2学年の話し手の意見や根拠に注意して聞き、自分の考えと比較する活動の後に、話の展開を予測しながら聞き、内容や表現の仕方を評価して自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 また、北海道（胆振・苫小牧）に関わりのある内容については、第1学年では4箇所、第2学年では2箇所、第3学年では2箇所取り上げられ、生徒の興味・関心を生かした学習が促されるよう工夫されている。（「北海道」や地名、地図が記載されている部分、アイヌ語が表記されている部分を取り上げた教材数） 第1学年～『未来を考える本』において、『知里幸恵物語』を取り扱っている。その他にも北海道の植物に関連する題材を取り扱っている。 第2学年～『世界を広げる本 日本文化』において、『カムイ・ユウカラ』を取り扱っている。その他にも北海道の動物に関連する題材を取り扱っている。 第3学年～『俳句の創作と句会』において、北海道の気候の特性を取り扱っている。その他にも北海道に関連する文章を取り扱っている。
使用上の配慮等	○ おすすめの本のポップを作り、その本の魅力を紹介し合う活動（第1学年）や社会生活とつながりのある体験学習について、それぞれの場面に応じたスピーチ活動（第3学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、様々な種類・テーマの本を紹介した「読書案内」（全学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「領域別教材一覧」で、既習事項を振り返らせたり、今後の学習の見通しをもたせたり（全学年）、「言葉の学習を始めよう」に、国語の学習の意義を示したり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「『言葉の力』一覧」で中学校3年間の学習を見通したり振り返ったり（全学年）、脚注欄などの小さめの文字や色文字の振り仮名にはゴシック体を用いたり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	国語	15・三省堂	現代の国語 1 現代の国語 2 現代の国語 3
取 扱 内 容	○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 50 必要な情報を整理して防災に関するリーフレットを作成する活動や、仮名遣いなどに注意して「竹取物語」を音読し、古典の世界に親しむことができるようになっていく。 第2学年～教材数 48 情報を整理・活用して水問題に関する考えをまとめる活動や、「枕草子」などを読んで、古文に表れた昔の人のものの見方や考え方を知ることができるようになっていく。 第3学年～教材数 43 情報の扱い方について、考えたことを話し合う活動や、「論語」の言葉を選んで引用し、身の回りの事柄と関連付けて、考えたことを書くことができるようになっていく。 ○話すこと・聞くことについては、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 4 日常生活から話題を決め、構成を工夫して伝える活動や、話題や展開に沿って話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるようになっていく。 第2学年～教材数 4 資料や機器を活用して自分の考えを分かりやすく伝える活動や、地域の魅力を伝えるために集めた材料を整理し、伝える内容を話し合うことができるようになっていく。 第3学年～教材数 5 聞き手や場の状況に応じて話の内容や話し方を工夫して伝える活動や、中学校生活で出会った心に残る言葉を集め、伝える内容を話し合うことができるようになっていく。 ○書くことについては、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 6 集めた材料を整理し、伝えたい内容を明確にしてレポートを書く活動や、創作した詩について感じたことが効果的に伝わるように、推敲することができるようになっていく。 第2学年～教材数 6 読み手の立場に立って書いた礼状を推敲する活動や、創作した短歌や俳句を読み合い、表現の工夫などについてよい点や改善点を見付けることができるようになっていく。 第3学年～教材数 4 条件に応じて表現などを工夫し、説得力のある文章を書く活動や、書いた文章を読み合い、論理の展開についてよい点や改善点を見付けることができるようになっていく。 ○読むことについては、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 18 必要な情報に着目し、文章を要約し、内容を捉える活動や、文章の構成や語り手の視点を捉え、表現の効果について考えることができるようになっていく。 第2学年～教材数 22 登場人物や相互関係を整理し、登場人物の設定の仕方を捉える活動や、図表や文章などを結び付けて、筆者の考えを捉えることができるようになっていく。 第3学年～教材数 18 文章の構成や論理の展開の仕方を捉え、評価する活動や、作品に表れているものの見方や考え方について考えながら読むことができるようになっていく。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材冒頭の「目標」や「学習の流れ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、複数の文章を読み比べ、構成や展開について考えたことを伝え合ったり、描写を基に、登場人物相互の関係や心情の変化を捉えたりするなど、考えを広げたり深めたりすることができるようになっていく。		

	第2学年～ 教材冒頭の「目標」や「学習の流れ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、登場人物の人物像について、考えたことを伝え合ったり、自分の知識や経験と結び付けて筆者の考えを捉えたりするなど、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。 第3学年～ 教材冒頭の「目標」や「学習の流れ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、文章を読んで、人間や社会について考えたことを伝え合ったり、詩の形式やリズムに注意しながら、表現の特徴を捉えたりするなど、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。 ○伝統的な言語文化については、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深め、目標を達成することができるよう、以下に示す教材数のように取り上げられている。 第1学年～教材数6、第2学年～教材数4、第3学年～教材数4
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 場面と登場人物の行動の描写を結び付けて、登場人物の心情を深く読み取る活動の後に、情景等の描写と場面の展開を結び付けて、登場人物の心情を深く読み取る活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 第1学年の書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識し、文章の構成や展開を考えて書く活動の後に、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫して書く活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 第2学年の結論を導くために、相手の考えと比較しながら聞き、互いの立場や考えを尊重しながら話し合う活動の後に、合意形成に向けて、進行の仕方を工夫するなどして計画的に話し合う活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 また、北海道（胆振・苫小牧）に関わりのある内容については、第1学年では0箇所、第2学年では5箇所、第3学年では3箇所取り上げられ、生徒の興味・関心を生かした学習が促されるよう工夫されている。（「北海道」や地名、地図が記載されている部分、アイヌ語が表記されている部分を取り上げた教材数） 第2学年～『動物園でできること』において、旭川市の旭山動物園を取り扱っている。その他にも北海道にゆかりのある著作者の文章を取り扱っている。 第3学年～『小さな図書館』において、『アイヌ語のおもしろさ』（知里真志保）を取り扱っている。
使用上の配慮等	○ 日常生活の様々な体験を振り返って題材を決め、随筆を書く活動（第1学年）や説得力のある論理展開を考え、構成を工夫して批評文を書く活動（第3学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、読書習慣の形成のため、読書に親しむ学習活動を扱う「読書活動」（全学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 各教材の冒頭に「学習目標」を提示し、末尾には学習を振り返る機会を設けたり、「読むこと」教材の「学びの道しるべ」で学習のプロセスを示したり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「領域別教材一覧」で「つきたい力」を示し、身に付けた力の自覚と達成感を促したり（全学年）、色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫したり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	国語	17・教出	伝え合う言葉 中学国語 1 伝え合う言葉 中学国語 2 伝え合う言葉 中学国語 3
取 扱 内 容	○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 47 情報同士を比較して言葉と画像を組み合わせ広告を作る活動や、昔話を読んで様々な作品があることを知り、古典の仮名遣いに触れる活動を通して、古典に親しむことができるようになっている。 第2学年～教材数 46 情報の効果を考えたり小説を脚本に書き換えたりする活動や、枕草子などを読んで、作者のものの見方や考え方に対して自分の考えをもつ活動を通して、作者のものの見方や考え方に対して、自分の考えをもつことができるようになっている。 第3学年～教材数 47 複数の社説から情報を捉え、意見や主張について考える活動や、和歌のリズムや内容の特徴を理解して作者の心情を想像し、和歌を味わう活動を通して、我が国の伝統文化や、言葉を大切にしようとする態度を養うことができるようになっている。 ○話すこと・聞くことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 8 伝えたいことを明確にしてお気に入りの一品を紹介する活動や、互いの意見を整理しながら話し合い、自分の考えをまとめる活動を通して、互いの意見を結び付けて整理しながら話し合うことができるようになっている。 第2学年～教材数 7 異なる立場や考えを取り上げて、ニュースや出来事を紹介する活動や、考えの共通点や相違点を捉えながら討論し、結論をまとめる活動を通して、それぞれの立場や考えの共通点や相違点を整理しながらまとめることができるようになっている。 第3学年～教材数 10 話し手の表現を評価しながら聞き、自分のスピーチを改善する活動や、互いの考えを尊重しながら話し合い、合意できる結論を出す活動を通して、互いの意見を尊重しながら話し合い、結論を出すことができるようになっている。 ○書くことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 7 目的や意図に応じて集めた材料を整理して案内文を書く活動や、客観性のある資料を参考に根拠と主張のつながりを明確にして意見文を書く活動を通して、読み手の立場に立って文章を整えることができるようになっている。 第2学年～教材数 12 伝えたいことを明確にしながら新聞の投書を書く活動や、表現の効果を確かめながら、適切な言葉を選び、手紙やメールを書く活動を通して、表現したい内容に合った言葉を選び、語彙を豊かにすることができるようになっている。 第3学年～教材数 11 論理の展開を考えて説得力のある批評文を書く活動や、読み手の助言を踏まえて、目的に応じた内容や表現を工夫し、自己PR文を書く活動読み手に自分の意図が伝わるような作品を作るために材料を集めたり、構成を考えたりすることができるようになっている。 ○読むことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 17 作品の構成や展開、人物の関係を捉えて作品の特徴を説明する活動や、論理の展開や表現の工夫を捉え、筆者の説明の意図をまとめる活動を通して、人物の心情や筆者の主張を理解することができるようになっている。 第2学年～教材数 20 作品の印象に残った表現とその効果について考えをまとめる活動や、論の展開と主張を捉えながら知識や経験と結び付けて考えをまとめる活動を通して、人物の心情の変化や説得力ある文章の展開について理解することができるようになっている。 第3学年～教材数 23 語りに着目しながら作品を読んで考えをまとめる活動や、構成や展開、表現の		

	仕方を比べて読み、社会や他者との関わりについて考える活動を通して作品を評価したり、批判的に読む力を身に付けることができるようになっている。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 「学びナビ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、作品の時間的な場面の展開に着目しながら読んで気付いたことを話し合ったり、論の構成や展開に着目して読みながら筆者の主張の背景を捉えたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 第2学年～ 「学びナビ」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、語り手の視点を捉えながら読み、登場人物の人物像について考えたり、文章を読み比べて筆者による論の構成や表現の意図の違いを捉えたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～ 「学習のてびき」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、作品の特性や価値について批評しながら読んで、自分の意見をもったり、文章の構成や展開の仕方を評価しながら読んだりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 ○伝統的な言語文化については、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深め、目標を達成することができるよう、以下に示す教材数のように取り上げられている。 第1学年～教材数7、第2学年～教材数7、第3学年～教材数7
内容の構成・排列	○内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 段落の役割を意識して文章の構成や展開を考えながら紹介文を書く活動の後に、読み手の立場に立って表記や語句の用法、叙述の仕方などを見直したり、確かめたりしながら報告文を書く活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 第1学年の中心となる内容と、それを説明する内容の関係を踏まえてスピーチの構成を考えて話す活動の後に、課題を多面的に捉えて設定し、根拠の適切さや論の展開に注意して自分の考えを伝える活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 第2学年の物語の構成や展開を意識して表現の効果を考えながら連作ショートショートを書く活動の後に、中学校での学習を振り返り、情報をまとめて読み手に自分の思いが伝わる作品集を作る活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 また、北海道（胆振・苫小牧）に関わりのある内容については、第1学年では9箇所、第2学年では3箇所、第3学年では4箇所取り上げられ、生徒の興味・関心を生かした学習が促されるよう工夫されている。（「北海道」や地名、地図が記載されている部分、アイヌ語が表記されている部分を取り上げた教材数）。 第1学年～ 『銀のしずく降る降る』において、アイヌの女性である知里幸恵の生涯や著作を取り扱っている。その他にも北海道にゆかりのある著作者の文章を取り扱っている。 第2学年～ 『悠久の自然』において、北海道の自然に関する内容を取り扱っている。その他にも北海道にゆかりのある著作者の文章や北海道の動植物に関連する題材を取り扱っている。 第3学年～ 『旅への思い——芭蕉と『おくのほそ道』——』において、かつて「夷」と呼ばれていた時代の歴史や地理に関する内容を取り扱っている。その他にも道東における基幹産業である漁業の代表的な特産物であるさんまなど、北海道の風土に関連する題材を取り扱っている。
使用上の配慮等	○持続可能な社会の実現に向けて、自分の課題を発見する活動（第1学年）や社会問題の中からテーマを決めて情報の信頼性を確かめながら新聞記事を書く活動（第3学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、生徒の学びを深める読書案内として「広がる本の世界」を掲載する（全学年）など、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○「みちしるべ」や「学習活動の流れ」などで学習の重点を示したり（全学年）、各単元における教材の冒頭に学習目標を示したり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○「言葉の地図」で教材の指導事項や言語活動を総覧できる一覧や自ら学習を振り返る観点を示したり（全学年）、明朝体やゴシック体を基本としながら、UDに対応した独自の教科書体を使用したり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	国語	38・光村	国語 1 国語 2 国語 3
取 扱 内 容	○〔知識及び技能〕の内容については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 66 本やウェブサイトから集めた情報を基に、自分の考えをまとめる活動や、作品を音読して古典のリズムを味わい、古典の世界を想像する活動を通して、古典に親しむことができるようになっている。 第2学年～教材数 66 話の筋や論点を整理するために、情報と情報の関係を図で整理する活動や、作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ活動を通して、作者のものの見方や考え方に対して、自分の考えをもつことができるようになっている。 第3学年～教材数 68 発信者の立場や意図を推測し、情報の信頼性を吟味する活動や、古典の文章の中から自分の心に響いた言葉を引用し、メッセージを書く活動を通して、我が国の伝統文化や、言葉を大切にしようとする態度を養うことができるようになっている。 ○話すこと・聞くことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 7 わかりやすく伝えるために、話の構成を工夫してスピーチする活動や、話題や展開を捉えて話し合い、その結果をクラス全体に報告する活動を通して、情報整理の方法や相手の反応を踏まえて話すことができるようになっている。 第2学年～教材数 7 話の構成を工夫し、資料や機器を使ってプレゼンテーションする活動や、異なる立場や意見を尊重し合いながら討論する活動を通して、自分の具体的な変化から共通点を見付け、まとめるとともに、互いの考えを尊重しつつ対話することができるようになっている。 第3学年～教材数 7 意見を聞いて適切さを判断し、スピーチをよりよくするための助言を考える活動や、身近な話題について話し合い、合意形成を図る活動を通して、文章の種類と特徴について理解するとともに、場の状況に応じ、わかりやすく話すことができるようになっている。 ○書くことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 13 情報を取捨選択し、まとめ方や順序を工夫して文章を書く活動や、引用の仕方に注意し、根拠を明確に示してレポートにまとめる活動を通して、伝えることを明確にして書くことができるようになっている。 第2学年～教材数 11 目的に応じて多様な方法で情報を集め、整理し、伝えたいことを紙面にまとめる活動や、表現の効果を考えて、描写を工夫して物語を書く活動を通して、友だちからのコメントを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができるようになっている。 第3学年～教材数 8 課題に沿って情報を読み取り、文章の構成や論理の展開をを考えて小論文を書く活動や、広告について客観的に分析し、批評文を書く活動を通して、構成を工夫し、内容を効果的に伝えることができるようになっている。 ○読むことについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教材数 17 登場人物の心情の変化をとらえ、図などを使って整理する活動や、本文を要約して筆者の主張をつかみ、立場を明確にして意見をまとめる活動を通して、人物の心情や筆者の主張を理解することができるようになっている。 第2学年～教材数 19 伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考える活動や、観点を明確にして文章を比較し、構成や表現の効果について考える活動を通して、人物の心情の変化や説得力ある文章の展開について理解することができるようになっている。 第3学年～教材数 22 登場人物の考え方や行動を批判的に読み、作品を批評する活動や、論説の比		

	較を基にグループで討論し、自分の考えをまとめる活動を通して作品を評価したり、批判的に読む力を身に付けたりすることができるようになっている。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 「学びへの扉」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、場面や描写を結び付けて内容を解釈したり、文章の構成や表現の効果についてグループで語り合ったりする活動を通して、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。 第2学年～ 「学びへの扉」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、文章の構成や、人物や出来事を語るときの表現から、筆者の思いを考えたり、人物像や表現の効果など、自分の選んだ観点で作品の魅力を捉えたりする活動を通して、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。 第3学年～ 「学びへの扉」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、文章に表れた筆者のものの見方や考え方について考えたり、表現に着目して詩を読み、社会について考えたことを伝え合ったりする活動を通して、考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。 ○伝統的な言語文化については、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深め、目標を達成することができるよう、以下に示す教材数のように取り上げられている。 第1学年～教材数5、第2学年～教材数7、第3学年～教材数9
内容の構成・排列	○内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 必要な情報を判断してメモを取りながら聞き取り、情報を整理して伝える活動の後に、聞き方や質問の仕方を工夫して相手の話を引き出し、対話を充実させる活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～ 第1学年の文章の構成や展開の効果を考え、根拠を明確にして自分の考えをまとめる活動の後に、文章の構成や論理の展開を吟味し、自分の考えを文章にまとめる活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～ 第2学年の対話を通して、国語を学ぶ意義を考えてコピーにまとめる活動の後に、3年間の国語の学びを振り返り、「これまで」と「これから」の学びについて冊子にまとめて発表会を行う活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 また、北海道（胆振・苫小牧）に関わりのある内容については、第1学年では4箇所、第2学年では2箇所、第3学年では4箇所取り上げられ、生徒の興味・関心を生かした学習が促されるよう工夫されている。（「北海道」や地名、地図が記載されている部分、アイヌ語が表記されている部分を取り上げた教材数）。 第1学年～ 『続けてみよう』『方言と共通語』において、アイヌ語のあいさつなどの言葉を取り扱っている。その他にも北海道に生息する動物に関連する題材を取り扱っている。 第2学年～ 『ほんの世界を広げよう』において、カムイ・ユーカーやアイヌ民族が語り継いできた動物の神々の物語を取り扱っている。 第3学年～ 『郷土ゆかりの作家・作品』において、三浦綾子の『塩狩峠』が紹介されている。その他にも北海道の方言や北海道の自然の豊かさに関連する題材を取り扱っている。
使用上の配慮等	○ 読み手の立場に立って、案内文を推敲する活動（第1学年）や社会生活の中から自分が訴えたいことを見付け、クラス全体に向けてスピーチをする活動（第3学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、多様なテーマを扱った読書单元「いつも本はそばに」（全学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「学びのカギ」で、学習の流れや学習のポイントを明確に示したり（全学年）、各教材の「振り返る」で、自分の言葉で学びを価値づける場を設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「学習の見通しをもとう」で1年間の学習を見渡したり（全学年）、漢字の読み仮名などの小さな文字にUD書体を用いたり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	